

事業報告書

令和5年度

(第8期事業年度)

自 令和5年4月 1日

至 令和6年3月31日

地方独立行政法人静岡市立静岡病院

目 次

I	法人の現況、目的、業務内容等	1
	(1) 法人の現況	
	(2) 役員等の状況	
	(3) 職員の状況	
	(4) 法人の理念や運営上の方針	
	(5) 法人の目的	
	(6) 業務内容	
	(7) 法人の位置付け及び役割	
II	業務実績等の状況	5
	第1 中期計画及び事業年度の期間	
	第2 市民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置	
	1 地域における役割・機能と担うべき医療	5
	(1) 静岡病院が担う役割・機能	
	(2) 静岡病院が担うべき医療（高度医療・専門医療等、救急医療、感染症医療、災害時医療）	
	2 患者の視点に立った信頼される医療の提供	8
	(1) 患者中心の医療の推進	
	(2) 医療安全対策	
	(3) 患者サービスの向上	
	3 医療従事者の確保と働き方改革	10
	(1) 医療従事者の確保	
	(2) 医療従事者の働きやすい環境づくり	
	4 地域との連携	12
	(1) 地域の医療機関との連携	
	(2) 市や関係機関等との連携	
	(3) 市民への情報提供	
	第3 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためとるべき措置	
	1 効率的な業務運営等	14
	2 教育研修の充実	15
	3 職員の勤務意欲の向上	16
	4 事務部門の強化	17
	第4 財務内容の改善に関する目標を達成するためとるべき措置	
	1 経営指標に係る数値目標の設定	17
	2 収入の確保及び費用の節減	18
	第5 その他業務運営に関する重要事項に係る目標を達成するためとるべき措置	
	1 法令等の遵守	19
	2 施設・医療機器等の更新	19
III	法人の内部統制の状況	20
IV	業務運営上の課題・リスク管理の状況	21
	(1) リスク管理の状況	
	(2) 業務運営上の課題	
V	予算と決算の対比	22
	(1) 予算	
	(2) 収支計画	
	(3) 資金計画	
VI	その他市の規則で定める業務運営に関する事項	24

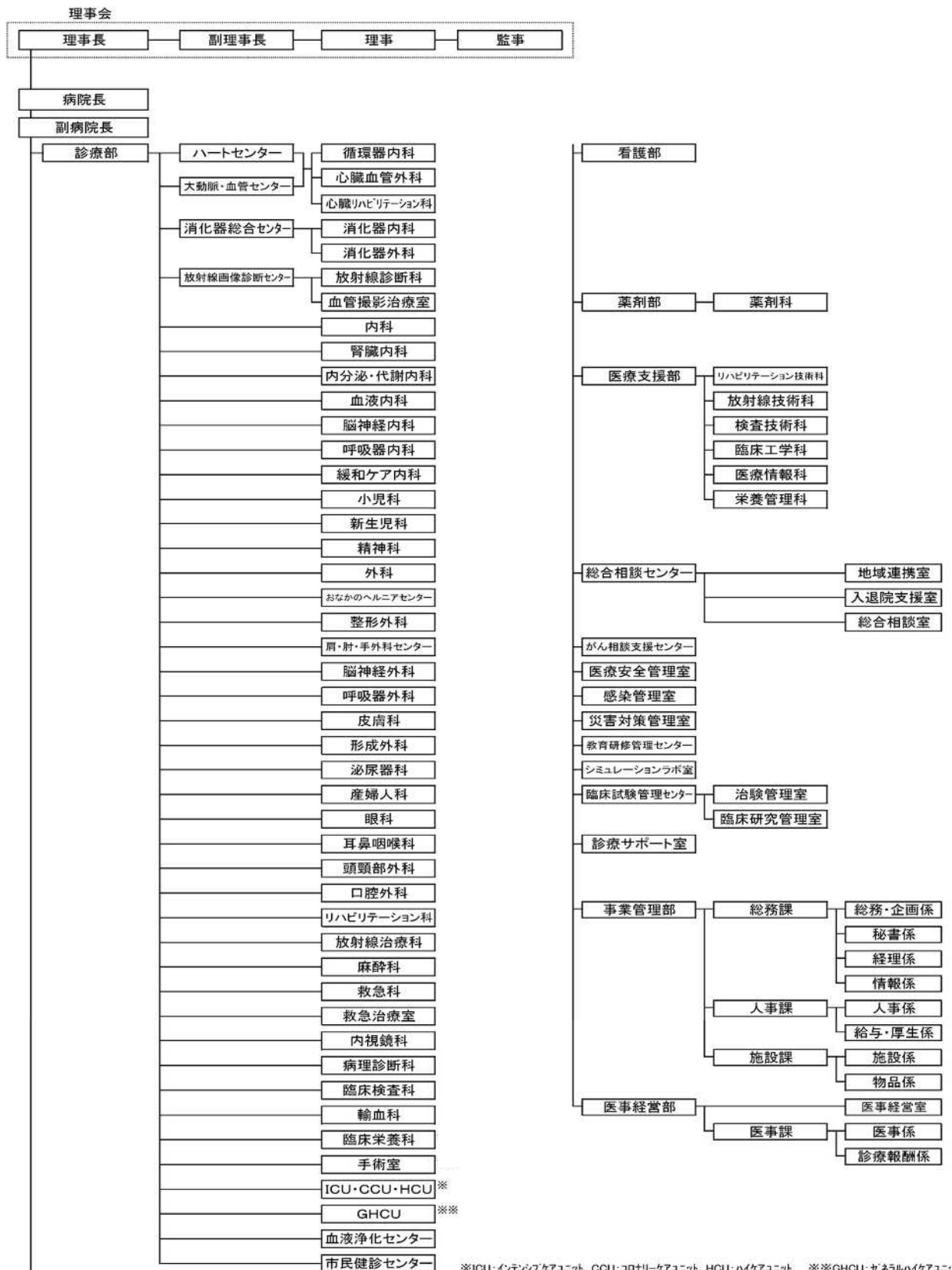
VII 財務諸表及び運営状況・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 25

- (1) 決算概要
- (2) 主な診療実績
- (3) 経営指標
- (4) 貸借対照表
- (5) キャッシュ・フロー計算書
- (6) 純資産変動計算書
- (7) 行政コスト計算書

I 法人の現況、目的、業務内容等

(1) 法人の現況（令和5年4月1日現在）

法人名 地方独立行政法人静岡市立静岡病院
所在地 静岡市葵区追手町10番93号
設立年月日 平成28年4月1日
組織図（令和5年7月1日）



(2) 役員等の状況 (令和5年4月1日時点)

役 職	氏 名	任 期	備 考
理事長	小野寺 知哉	自 令和5年4月 1 日 至 令和9年3月31日	常 勤 病院長を兼務
副理事長	前田 明則	自 令和5年4月 1 日 至 令和9年3月31日	常 勤 副病院長を兼務
副理事長	平松 以津子	自 令和5年4月 1 日 至 令和9年3月31日	常 勤
理 事	大畑 和弘	自 令和5年4月 1 日 至 令和7年3月31日	常 勤
理 事	山田 孝	自 令和5年4月 1 日 至 令和7年3月31日	常 勤 副病院長を兼務
理 事	深澤 誠司	自 令和5年4月 1 日 至 令和7年3月31日	常 勤 副病院長を兼務
理 事	居城 舜子	自 令和5年4月 1 日 至 令和7年3月31日	非常勤
理 事	渡邊 昌子	自 令和5年4月 1 日 至 令和7年3月31日	非常勤
理 事	藤田 尚徳	自 令和5年4月 1 日 至 令和7年3月31日	非常勤
監 事	興津 哲雄	自 令和4年度財務諸表承認日の翌日 至 令和8年度財務諸表承認日	弁護士
監 事	山田 博久	自 令和4年度財務諸表承認日の翌日 至 令和8年度財務諸表承認日	公認会計士

(3) 職員の状況 (令和6年3月31日現在)

職員数 940名

(内訳) 医師 169名
看護師・助産師 526名
医療技術員 174名
事務職 71名 (うち派遣職員14名)

(4) 法人の理念や運営上の方針

基本理念

開かれた病院として、市民に温かく、質の高い医療を提供し、福祉の増進を図ります。

基本方針

1. 患者さんを主体とし、患者さんにとって最善の全人的医療を実践します。
2. 静岡市の基幹病院として、高度専門医療を提供し、その向上を常に図ります。
3. 市民の安全を守るため、二次救急医療、救命救急医療、災害時医療を提供します。
4. 地域医療の充実のため、病診連携、病病連携、保健福祉機関との連携を図ります。
5. 職員は、研修、研究、教育を通じて医療水準の向上を図ります。

(5) 法人の目的 (地方独立行政法人静岡市立静岡病院定款 第1条)

地方独立行政法人静岡市立静岡病院は、地方独立行政法人法（平成15年法律第118号。以下「法」という。）に基づき、医療の提供、医療に関する調査及び研究、医療に従事する者の育成等の業務を行うとともに、地域の医療機関との役割分担及び連携のもと、静岡市の医療施策として求められる救急医療、高度医療等を提供することにより、医療の水準の向上を図り、もって市民の健康の維持及び増進に寄与することを目的としています。

(6) 業務内容 (地方独立行政法人静岡市立静岡病院定款 第17条)

地方独立行政法人静岡市立静岡病院は、法人の目的を達成するために、次に掲げる業務を行います。

- (1) 医療を提供すること。
- (2) 医療に関する調査及び研究を行うこと。
- (3) 医療に従事する者に対する研修を行うこと。
- (4) 医療に関する地域への支援を行うこと。
- (5) 人間ドック、健康診断等の予防医療を提供すること。
- (6) 上記(1)から(5)に掲げる業務に附帯する業務を行うこと。

(7) 法人の位置付け及び役割

【法人の位置付け】(令和6年3月31日時点)

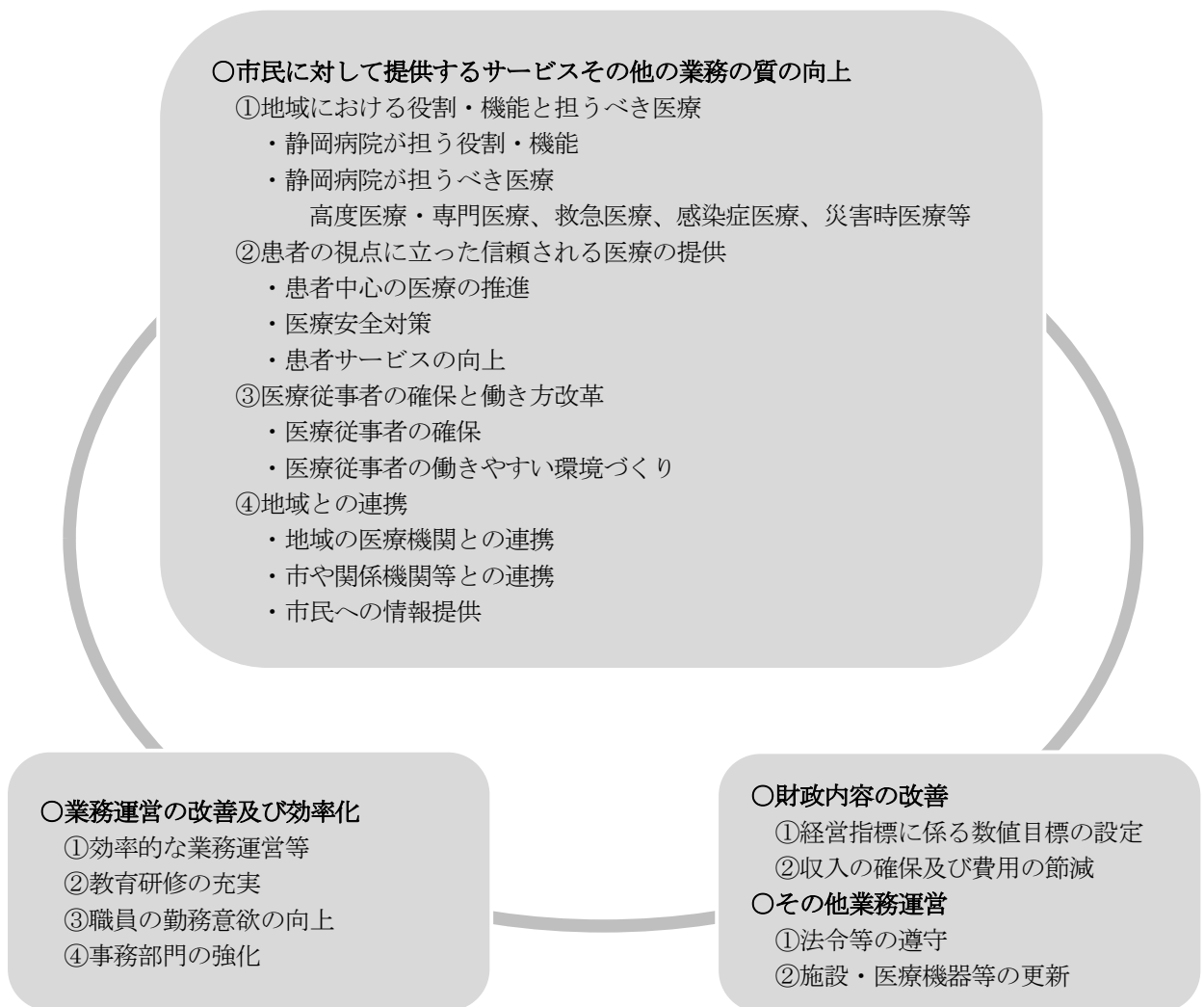
病 院 名	静岡市立静岡病院
主な役割	地域医療支援病院(平成18年)
及び機能	臨床研修指定病院 救急告示病院 第一種感染症指定医療機関(平成20年) 災害拠点病院(平成25年) 地域がん診療連携拠点病院(平成19年) エイズ中核拠点病院 地域肝疾患診療連携拠点病院(平成19年) 地域周産期母子医療センター 日本医療機能評価機構認定病院(平成20年)
診療科目	内科、腎臓内科、内分泌・代謝内科、血液内科、神経内科、呼吸器内科、消化器内科、循環器内科、緩和ケア内科、小児科、精神科、外科、消化器外科、整形外科、形成外科、脳神経外科、呼吸器外科、心臓血管外科、皮膚科、泌尿器科、産婦人科、眼科、耳鼻咽喉科、頭頸部外科、リハビリテーション科、放射線診断科、放射線治療科、麻酔科、救急科、歯科口腔外科及び病理診断科
(計31科目)	

病 床 数	506床(感染症病床「一類2床、二類4床」を含む)
沿 革	明治2年 追手町四ツ足御門外に藩立駿府病院を開設 明治9年 公立静岡病院として屋形町で開院(県立) 明治15年 県立から郡立(有度・安倍郡)に移管 明治22年 静岡市制施行に伴い静岡市に移管 明治38年 市立静岡病院と改称 昭和20年 戦災により焼失 昭和21年 隣保館(巴町59番地)を改築、仮病院とする 昭和26年 追手町10番93号(現在地)に移転 昭和49年 本館(旧東館)竣工 昭和60年 病院建設工事施工(4か年継続事業) 昭和62年 第1期西館高層棟完成 平成元年 第2期低層棟、立体駐車場、東館改修工事完成 平成2年 オープンシステム(開放型病院)実施 平成3年 心電図伝送システム導入 平成7年 オーダリングシステム稼働 平成15年 新静岡市にて開設 平成15年 日本医療機能評価機構の病院機能評価認定審査に合格(Ver.4) 平成15年 地域医療支援室を設置 平成18年 地域医療支援病院の承認を取得 平成19年 地域がん診療連携拠点病院の指定 平成19年 肝疾患診療連携拠点病院の指定 平成20年 東館竣工 平成20年 電子カルテシステム稼働 平成20年 日本医療機能評価機構の病院機能評価認定更新(Ver.5)

平成 21 年	D P C 対象病院
平成 22 年	病院専用駐車場竣工
平成 25 年	ハイブリット手術室稼働
平成 25 年	内視鏡下手術用ロボット（ダ・ヴィンチ）稼働
平成 25 年	日本医療機能評価機構の病院機能評価認定更新(3rdG : Ver. 1. 0)
平成 25 年	災害拠点病院の指定
平成 26 年	経カテーテル大動脈弁置換術開始
平成 28 年	地方独立行政法人としてスタート
平成 29 年	P E T / C T 稼働
平成 30 年	日本医療機能評価機構の病院機能評価認定更新(3rdG : Ver. 2. 0)
令和元年	創立 150 周年記念式典及び祝賀会举行
令和元年	パルス式キセノン紫外線照射ロボット（ライトストライク）導入
令和 2 年	新型コロナウイルス感染症重点医療機関の指定
令和 2 年	特定行為研修指定研修機関の指定
令和 3 年	総合医療情報システム（電子カルテ）更新
令和 4 年	大動脈・血管センター開設
令和 5 年	肩・肘・手外科センター、おなかのヘルニアセンター開設
令和 5 年	日本医療機能評価機構の病院機能評価認定更新(3rdG : Ver. 3. 0)

【法人の役割】

第 3 期中期目標期間における法人が果たすべき役割



Ⅱ 業務実績等の状況

第1 中期計画及び事業年度の期間

第3期中期計画の期間 令和5年4月1日から令和9年3月31日までの4年間とする。

第1期事業年度の期間 令和5年4月1日から令和6年3月31日までの1年間とする。

第2 市民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置

1 地域における役割・機能と担うべき医療

(1) 静岡病院が担う役割・機能

○静岡病院が果たすべき役割

- ・静岡市の基幹病院として、静岡県地域医療構想を踏まえた当院の主たる役割を、急性期医療・高度急性期医療を担うこととし、診療体制の整備や医療の提供、地域の医療機関及び介護、福祉施設等との連携に努めた。
- ・急性期医療・高度急性期医療の更なる推進と、限られた人員の有効かつ効率的な配置とともに積極的な病床運用による稼働率の向上を図るため、HCU（ハイケアユニット）を東8病棟へ集約し、20床から30床へ増床した。
- ・DPC入院期間Ⅱ以内退院割合は、クリニカルパス*数の増加や各診療科との病院長ヒアリングでの周知、入退院支援室での早期退院に向けた取り組み等により、目標値を上回った。
- ・入退院支援室による入院決定から退院までの一貫した支援や、地域の医療機関・施設等との連携により、適切な入院治療に向けた支援と円滑な退院に向けた支援に取り組んだ。
- ・地域連携パスを活用し、かかりつけ医との切れ目のない連携と治療経過の共有により、質の高い医療の提供体制を推進した。

目標値

項目	令和2年度 実績	令和3年度 実績	令和4年度 実績	令和5年度 目標	令和5年度 実績
DPC入院期間Ⅱ以内退院割合	66.3%	67.1%	66.1%	68.0%	69.8%
入退院支援加算算定件数	5,307件	5,426件	6,665件	5,500件	7,595件
地域連携パス（疾患別病診連携パス） 新規利用件数	314件	526件	362件	450件	440件

参考値

項目	令和2年度実績	令和3年度実績	令和4年度実績	令和5年度実績
重症度、医療・看護必要度Ⅱ	40.7%	39.8%	36.1%	36.6%
在宅復帰率	92.2%	97.8%	97.0%	97.4%
医療機能別病床数	高度急性期	451床	500床	355床
	急性期	49床	0床	145床

※医療機能別病床数 令和5年度算出方式

新静岡方式：従来の静岡方式を下記の内容へ変更した「定量的基準」（作成者：浜松医科大学小林特任教授）

高度急性期 ・ 特定入院料等区分（救命救急、ICU、HCU、NICU等）

・ 重症度、医療・看護必要度Ⅱ35%以上かつ平均在棟日数11日未満

急性期 ・ 上記を満たさない病棟

(2) 静岡病院が担うべき医療（高度医療・専門医療等、救急医療、感染症医療、災害時医療）

○高度医療・専門医療等

- ・ハートセンターでは、心臓疾患に対する高度・専門医療を提供するため、循環器内科と心臓血管外科が緊密に協力し、重症の大動脈弁狭窄症や虚血性心疾患などの診療に24時間体制で対応した。
- ・大動脈・血管センターでは、対象患者の高齢化が進む動脈疾患や静脈疾患に対して、循環器内科と心臓血管外科の連携による、カテーテル治療と外科治療を組み合わせた医療の提供に取り組んだ。
- ・カテーテルアブレーション、冠動脈インターベンション、ロボット支援手術、内視鏡手術、がん化学療法が年々増加しており、患者に対して最適で低侵襲な治療を積極的に行っている。
- ・高齢化社会により増加している腹部のヘルニアについて、より専門性の高い医療を提供するため、新たに「おなかのヘルニアセンター」を設置した。

- ・細分化され専門性の高い医療分野である、肩、肘、手について、より専門的な医療と機能回復に向けた適切なりハビリテーションを提供するため、新たに「肩・肘・手外科センター」を設置した。
- ・地域がん診療拠点病院*として、これまでの豊富な治療実績や手術室の改装と手術支援ロボットの更新により、手術や放射線療法、化学療法などの集学的治療を継続して提供した。また、需要が増えている外来化学療法室について令和6年度の拡張に向けた整備を行っている。
- ・がん相談支援センターでの窓口相談や「がん患者サロン葵」開催による患者・家族同士の交流による患者支援、病診がんカンファレンスや緩和ケア研修開催による診療連携体制の構築に努めた。

参考値

項目	令和2年度実績	令和3年度実績	令和4年度実績	令和5年度実績
カテーテルアブレーション件数	234 件	321 件	368 件	411 件
冠動脈インターベンション件数	439 件	442 件	388 件	477 件
開心術件数	307 件	267 件	212 件	203 件
T A V I	75 件	97 件	103 件	101 件
ステントグラフト治療件数	110 件	117 件	107 件	130 件
ロボット支援手術件数	90 件	118 件	131 件	152 件
内視鏡手術件数	794 件	1,002 件	1,109 件	1,187 件
内視鏡検査数	3,929 件	4,361 件	4,805 件	4,881 件
P E T / C T 稼働件数	781 件	726 件	767 件	793 件
悪性腫瘍手術件数	735 件	737 件	771 件	742 件
がん化学療法延べ患者数	3,626 人	3,751 人	3,827 人	3,921 人

○救急医療

- ・救急科主任科長・救急治療室科長を責任者として、業務量に応じた看護師を配置し、他の診療科の医師などと協力して運営している。特定行為研修を受けた看護師の配置や輪番日におけるスタッフの増員などにより、二次医療*機関としての対応症例である重症患者のみでなく、初期救急から最重症の三次救急まで24時間体制で幅広く受け入れ、地域に信頼される医療の提供に努めた。
- ・救急搬送応需率（実績値 97.6%）および救急車受け入れ台数は、静岡地域内公的5医療機関では最も高かった。やむを得ず不応需となった事例については、毎月開催する救急業務委員会にて一件ごと詳細に検証を行い、適正な救急患者受け入れに努めた。

静岡地域内公的5医療機関・・・静岡市立静岡病院、静岡県立総合病院、静岡済生会総合病院、静岡赤十字病院、

J A 静岡厚生連静岡厚生病院

- ・各部署での急変時対応訓練や急変時対応の振り返り評価、院内急変迅速体制として RRT コールの設定により、24時間患者の状態変化に迅速に対応できる体制を維持した。
- ・外部講師による院内救急講演会や蘇生トレーニング、小児急変対応研修の実施、臨床研修医*を対象とした救急車同乗研修などにより、医療従事者の救急現場でのスキル向上に努めた。

<院内救急講演会（ハイブリッド開催）>

第1回 7月14日 「意識障害に会ったら@E R」（受講人数 21人）

第2回 11月24日 「高齢者救急」（受講人数 21人）

（第1回、第2回共）講師：国保旭中央病院 救急救命科 医長 坂本 壮 氏

目標値

項目	令和2年度実績	令和3年度実績	令和4年度実績	令和5年度目標	令和5年度実績
救急搬送応需率	94.9%	97.5%	95.9%	95.0%	97.6%

参考値

項目	令和2年度実績	令和3年度実績	令和4年度実績	令和5年度実績
救急患者数	10,720 人	11,292 人	12,958 人	13,305 人
救急車搬送患者数	5,352 人	5,875 人	6,989 人	7,548 人
地域救急貢献率	19.7%	19.6%	20.4%	20.6%

○感染症医療

- ・医師、感染管理認定看護師*等で組織された感染管理室のもとに、感染制御チーム（ICT）、抗菌薬適正使用支援チーム（AST）を設置し、それぞれ医師、看護師のほか薬剤師、臨床検査技師を配置し感染症患者の受け入れ体制を維持した。
- ・病院長も参加する院内感染対策委員会を毎月開催し、現状の把握と院内感染対策に関する事案の審議を行うほか、病院職員の院内感染対策に関する基本的知識の習得を目的とした研修を開催し、全職員を対象とした院内感染対策講演会の受講率は100%となった。

<院内感染対策講演会>

第1回 7月4日 第1部「薬剤耐性菌対策とCD感染症」
第2部「院内感対策としてのワクチン接種 何ができるか、何をすべきか」
(受講人数1,202人 受講率100%)

第2回 12月22日 第1部「抗菌薬を使う時、何を気にしますか？」
第2部「標準予防策 ―マスクと手洗い―」
(受講人数1,176人 受講率100%)

- ・5月8日から新型コロナウイルス感染症の感染症法上の位置づけが5類に移行されたことにより、入院時のスクリーニング検査の終了と新型コロナウイルス感染症対策としての面会制限を解除した。
- ・紫外線照射による殺菌・消毒は、定型的な運用から必要時の運用へ見直したことにより、稼働実績は減少した。
- ・感染対策の更なる向上と地域の感染対策を推進するため、近隣の関係機関との合同カンファレンスや相互評価等を実施した。
 - ・静岡市感染症等の合同カンファレンス (年4回開催 市内14病院、静岡医師会、清水医師会、静岡市保健所)
 - ・感染対策向上加算に係る相互評価 (11月17日 静岡病院、静岡厚生病院)
 - ・外来感染対策向上加算届出医療機関訪問カンファレンス (11月28日、12月6日、7日 市内4病院)

参考値

項目	令和2年度実績	令和3年度実績	令和4年度実績	令和5年度実績
感染症対応用確保病床数（最大確保数）	32床	32床	28床	23床
紫外線照射ロボット稼働実績	2,458回	2,506回	2,050回	1,072回
手指衛生用消毒液購入量	3,765ℓ	3,386ℓ	2,830ℓ	2,215ℓ
入院患者1人1日あたり病棟用購入量	18.6ml	18.9ml	17.4ml	13.8ml

○災害時医療

- ・11月に大規模災害時における多数傷病者受入れを想定したトリアージ訓練（参加人数113人）を実施した。また、災害時医療対応マニュアルの改善を図るため、部門別マニュアル検証訓練（参加延べ人数175人）を実施した。
- ・緊急連絡メールによる情報伝達訓練を年4回実施した。（登録率98.9%）
- ・新規採用者を対象とした防火・防災設備研修（参加人数80人）、病棟での夜間火災を想定した消防防災訓練（参加人数65人）、部門別に消防出前講座（参加延べ人数82人）を実施し、職員の防災意識向上を図った。
- ・外部講師を招いて、病院における断水時の対応について院内講演会を開催し、豪雨災害時等における職員の意識啓発を図った。

<院内講演会>

9月15日 「病院の1週間の断水を経験して我々が得たもの」(受講人数 91人)

講師：静岡市立清水病院 病院長 上牧 務氏

- ・医薬品や非常食の保存期限の確認を行い、飲料水等の備蓄品の入替えを行った。
- ・非常用発電機の点検は、点検項目を通常必要なレベルより追加することで、有事の際の安定的な電力確保に努めた。
- ・1月1日に発生した能登半島地震では、静岡県及び静岡県看護協会からの出動要請により1月2日からDMAT隊等を派遣し、医療救護活動に従事した。

<主な活動内容>

1月2日～2月17日 静岡県DMAT調整本部へ従事（延べ27名）

被災地の情報収集や各DMAT隊との連絡調整など後方支援に従事。

1月5日～1月9日 第1陣DMAT隊派遣(医師1 看護師2 薬剤師1 臨床工学技士1)

主に石川県鳳珠郡穴水町(ほうすぐんあなみずまち)で活動。被災直後の穴水町避難所において、避難所のスクリーニング、物資支援等に従事。

1月20日～1月24日 第2陣DMAT隊派遣(医師1 看護師2 薬剤師1 事務1)

主に石川県金沢市内で活動。珠洲市(すずし)から避難された被災者約120名を対象にメディカルチェックや入退所管理に日当直体制に従事。

2月16日～2月19日 第3陣DMAT隊派遣

(医師1 看護師1 臨床工学技士1 診療放射線技師1 事務1)

主に石川県金沢市内で活動。被災者のメディカルチェックとDMAT隊撤収後に向けた現地医療活動チームとの業務調整に従事。

2月20日～2月23日 災害支援ナース派遣(看護師1)

主に石川県金沢市内で活動。避難所であるいしかわ総合スポーツセンターにて被災者のメディカルチェックに従事。

- ・DMAT隊の技能維持のため、中部ブロックDMAT実働訓練(山梨県甲府市)や技能維持研修(愛知県名古屋市)、大規模地震時医療活動政府訓練(兵庫県淡路市)などへ参加した。また、新たに隊員養成研修へ5人が参加し、DMAT隊員を15人態勢(医師3 看護師4 薬剤師3 臨床工学技士1 診療放射線技師1 管理栄養士1 事務2)とした。

参考値

項目	令和2年度実績	令和3年度実績	令和4年度実績	令和5年度実績
防災訓練開催回数	4回	4回	4回	4回
DMAT隊チーム数	2チーム	2チーム	2チーム	2チーム

2 患者の視点に立った信頼される医療の提供

(1) 患者中心の医療の推進

○患者中心の医療の推進

- ・総合相談センターにて相談窓口を一本化し、社会福祉士、看護師、事務職等の多職種で相談に対応している。必要に応じて院内外の専門職種や諸機関等とも連携し対応に努めた。
- ・主な相談内容は、療養や経済上の問題、入院や退院後の生活上の悩み、退院先の調整、がんの治療や就労に関することなどであり、看護師や社会福祉士が連携し対応している。核家族化で在宅医療が困難なケースや、経済的に転院調整が困難なケースが年々増えている。
- ・「患者さんの権利」を明文化し病院ホームページ、入院案内、院内掲示などを通して患者・家族へ周知している。また、職員に対しては、新たに作成・配布した職員ハンドブックに掲載することで、更なる周知を図った。
- ・新たに「こどもの患者さんの権利」を策定し、安心できる人と一緒に過ごす権利、遊びや学びの機会が大切にされる権利を定めた。
- ・将来の医療及びケアについて、患者本人を主体にその家族や近い人とケアチームが、患者本人による意思決定を支援するACP(アドバンス・ケア・プランニング)に取り組むため、緩和ケア看護師を中心としたチームを立ち上げ検討を進めた。

<院内医療倫理講演会>

令和6年1月29日 「共同意思決定とACP～意思決定支援とは～」(受講人数 39人)

講師：東京大学大学院人文社会系研究科死生学・

応用倫理センター上廣講座 特任教授 会田 薫子 氏

参考値

項目		令和2年度実績	令和3年度実績	令和4年度実績	令和5年度実績
総合相談件数		4,603 件	5,028 件	5,285 件	5,714 件
(内訳)	退院調整（在宅）	52.3%	50.3%	49.0%	45.3%
	退院調整（転院）	27.9%	29.8%	30.3%	27.4%
	経済的な相談	7.4%	7.8%	5.2%	3.9%
	受診に関する相談	7.3%	5.6%	1.9%	2.1%
	その他	5.1%	6.5%	13.6%	21.3%

(2) 医療安全対策

○医療安全対策強化に向けた取り組み

- ・副院長を医療安全管理室長として専任配置し、看護師の専従医療安全管理者、専任の医薬品安全管理者、医療機器安全管理者、放射線安全管理者を配置し、組織横断的に医療安全活動に取り組んだ。ミーティングを週1回開催し、医療安全に関する情報を共有した。
- ・転倒・転落、注射、チューブ管理等9つの医療安全作業部会を組織し、インシデント*の分析や改善、マニュアルの見直し等を随時行い、月に1～2回発行する「医療あんぜん情報」および文書配布等により職員へ周知した。
- ・医療事故に至らなかった事例をより多く収集し、事例の共有や防止策の検討・実施により医療事故の防止に努めた。「医療あんぜん情報」や研修会等でインシデントレポートの目的と必要性を説明し、職員の安全意識を高めたことにより、目標値を超えるインシデントレポートの件数（達成率130.2%）に繋がった。
- ・9月を患者誤認防止強化月間とし、患者対応をする35部署1,173人を対象に業務終了時のセルフチェックを実施し、業務フローの再確認と意識向上を図った。（回収率90.0%）
- ・医療安全対策の推進と更なる向上を図るため、当院と静岡市立清水病院、清水駿府病院の3病院で連携し、院内ラウンドによる医療安全相互チェックを実施した。

7月6日（木） チェック対象病院：静岡病院

1月12日（金） チェック対象病院：静岡市立清水病院

3月12日（火） チェック対象病院：清水駿府病院

- ・全職員を対象とした医療安全講演会の他、末梢静脈穿刺の安全対策講習会、転倒転落予防研修会、深部静脈血栓症予防講習会、インスリン勉強会、血栓塞栓症予防講習会、診療用放射線の安全利用のための研修会等を実施した。

<院内医療安全講演会>

第1回 8月29日 「Rapid Response System -基礎知識から最近の話題まで-

講師：聖マリアンナ医科大学 救命救急センター 医長 内藤 貴基 氏

（受講人数1,207人 受講率100%）

第2回 12月11日 「インフォームドコンセントを考える 自己決定権では何もわからない」

講師：リョマホ法律事務所 弁護士 岡田 隆志 氏

（受講人数1,193人 受講率100%）

- ・診療プロセスの標準化と患者・家族等へのわかりやすい情報の提供を目指し、診療ガイドラインに沿ったクリニカルパスを多職種により作成した。定期的な見直しとバリエーション分析に取り組み医療の質の改善に努めた。

目標値

項目	令和2年度実績	令和3年度実績	令和4年度実績	令和5年度目標	令和5年度実績
インシデント レポート件数（※）	2,140件	2,194件	2,702件	2,200件	2,865件

※ 続発症含む

参考値

項目	令和2年度実績	令和3年度実績	令和4年度実績	令和5年度実績
入院患者の転倒・転落発生率	0.22%	0.26%	0.28%	0.28%
医療安全作業部会開催回数	33回	33回	43回	52回
クリニカルパス数	74	126	166	207

(3) 患者サービスの向上

○患者サービス向上に向けた取り組み

- ・院内9か所に提案箱を設置し、毎週回収した意見・要望は内容に応じて担当部署へ振り分け、対応策の検討・実施を行った。内容は運営会議および各部門連絡会議を通じて職員に周知し、患者・家族には院内掲示でフィードバックしている。
- ・患者満足度調査を11月に実施した。（入院11月6日～19日、外来11月13日～17日）入院・外来あわせて1,492枚配布し、回収は1,082枚（回収率72.5%）であった。男女比では男性52.7%、女性47.3%、年代別では70歳代33.1%、80歳以上20.7%、60歳代20.4%と約7割が60歳以上であった。

- ・目標値である入院患者満足度は 91.6%（達成率 101.8%）、外来患者満足度は 89.6%（達成率 105.4%）と目標値を上回る結果となった。「患者満足度カイゼンWG」を組織し、患者満足度調査の結果から課題を抽出し、患者満足度の向上に取り組んだ。

<会計待ち時間の短縮>

会計窓口周辺のレイアウト変更による混雑の緩和と動線の整備、外来スタッフ向けのコスト算定勉強会の実施などにより、平均待ち時間は 8 分 5 秒（前年度 10 分 31 秒）に短縮。満足度調査での会計待ち時間に関する評価は 3.6（前年度 3.3）に改善された。

<AI 問診・OCR 導入による外来診察待ち時間の短縮>

問診内容やお薬手帳の内容等の電子カルテへの手入力を、AI 問診や OCR を導入することでコピー＆ペーストを可能とし、診察待ち時間の短縮を図った。システムの構築や業務フローの見直しを行い、口腔外科で部分的に導入を始めた。今後は導入後の成果を確認しながら、利用の拡大を進める。

<外来診察待ち時間の対応>

順番表示が各科待合でしか確認できないため、YouTube で配信することで、待ち時間に対する不満の解消を図った。外科・消化器外科と消化器内科で試行したが、1 日平均利用人数は 3.8 人～7.6 人と少なく、年齢は 60 歳未満が 78.3%と高齢者の利用率も低かった。利用者アンケートでは順番以外の表示が多い、年配の方は使いにくい等の意見もあり YouTube での配信を終了した。今後は他の改善策を検討する。

<接遇の向上>

一般的なビジネスマナーではなく医療機関に特化した研修内容とした。開催日程を増やし、e-ラーニングを併用することで受講者数の向上を図った。

—接遇講演会—

11 月 1 日（水）、2 日（木）、9 日（木）、14 日（火）、15 日（水）ほか

基礎編「医療機関に求められる接遇とは 等」

確認編「クレーム・苦情を未然に防ぐコミュニケーション等」

講師：㈱ニチイ学館 医療関連事業本部

ブランディングアドバイザー 疋田 早苗 氏

（受講人数 1,044 人 受講率 93.5%）

<案内表示の改善>

患者アンケートに、主に西館から売店と駐車場への案内表示がわかりづらいとの意見が複数寄せられていた。あらためて動線を確認し、西館地階から 12 階までの各フロアへ、新たに売店までの案内表示を作成し更新した。また、駐車場への案内表示についても自発光式のものを新たに増設した。

目標値

項目	令和 2 年度実績	令和 3 年度実績	令和 4 年度実績	令和 5 年度目標	令和 5 年度実績
入院患者満足度（※）	90.9%	87.2%	89.8%	90.0%	91.6%
外来患者満足度（※）	86.0%	80.1%	83.7%	85.0%	89.6%

参考値

項目	令和 2 年度実績	令和 3 年度実績	令和 4 年度実績	令和 5 年度実績
入院患者満足度（※）（接遇項目のみ）	89.1%	86.8%	92.9%	92.9%
外来患者満足度（※）（接遇項目のみ）	86.8%	82.2%	87.3%	87.5%
提案箱投書件数	127 件	128 件	94 件	106 件
（内訳）	苦情	42.5%	44.5%	45.7%
	提案、要望	41.0%	32.8%	29.8%
	感謝、お褒め	16.5%	20.3%	24.5%
	その他	0.0%	2.4%	0.0%

※「満足」以上とした割合

3 医療従事者の確保と働き方改革

（1）医療従事者の確保

○医療従事者確保に向けた取り組み

- ・医療法や施設基準*上、必要な人員を確保している。定員は各職種・部門ごと決めており、各部門から出された増員要求を査定した上で採用をすすめ、中途採用も行っている。

- ・見学生の要望にあわせ、個別に丁寧な対応を行い満足度を高めたことなどから、病院見学は前年度から約70人増となる213人（浜松医科大学44人、京都大学10人、国際医療福祉大学・北海道大学7人など）を受け入れた。研修医・専攻医の確保へ積極的に取り組み、受験者数の増加に繋がった。
- ・市内出身の医師、医学生及びその親族等を対象とした静岡市主催の説明会「静岡市ドクター・バック合同説明会」に参加した。
- ・専攻医確保では、ハイブリッド形式によるプログラム説明会の開催や、他院研修医の病院見学受け入れ等により、内科専攻医3人を採用した。
- ・看護師の募集活動では、県内だけでなく県外の大学や看護専門学校へも訪問し就職説明や病院の魅力を伝えている。また、新たにハローワークで開催される看護職の就職説明会にも3回参加するなど、就業機会の拡大を図った。さらに看護実習の積極的な受け入れをすることで、静岡病院の魅力を多くの学生に知ってもらうよう努めた。
- ・看護師採用試験は受験機会の創出のため、4月から毎月実施した。また、試験科目を簡素とすることで、より静岡病院を受験しやすいように変更し、看護師数の確保に努めた。

参考値

項目	令和2年度実績	令和3年度実績	令和4年度実績	令和5年度実績
医師・歯科医師数	158人	163人	167人	169人
（うち、専攻医数）	(21人)	(29人)	(35人)	(29人)
（うち、研修医数）	(25人)	(26人)	(26人)	(27人)
助産師・看護師数	517人	533人	528人	526人
医療技術員数（※）	170人	169人	170人	174人
各種専門資格を有する職員数	125人	125人	126人	138人
医師・歯科医師	93人	92人	92人	102人
助産師・看護師	14人	16人	18人	19人
医療技術員数（※）	18人	17人	16人	17人

※ 医療技術員…薬剤師、診療放射線技師、臨床検査技師、管理栄養士、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、視能訓練士、臨床工学技士、歯科衛生士

（2）医療従事者の働きやすい環境づくり

○働きやすい環境の整備

- ・目標値である有給休暇の年間取得日数は12.3日（達成率 96.9%）となった。職種別では医師や医療技術員の取得は前年実績を上回ったが、看護師の取得日数は減少となった。また、医師の平均時間外勤務時間数は、48.6時間/月（達成率 94.7%）と目標を達成できなかったが前年度と同水準で推移した。
- ・令和6年4月からの医師の働き方改革開始に向け、医師労働時間短縮計画の策定を始め、システムの一部改修や勤務間インターバルの確保、代償休息の付与、長時間労働が見込まれる医師への面接指導等に関する運用を定めたマニュアルを新たに整備し、医療機関勤務環境評価センターの受審を経て、静岡県へ特定労務管理対象機関の指定申請を行い全ての手続きを完了した。
- ・看護師特定行為研修は令和2年度の開講からこれまでに19人が研修を修了した。医療行為のタスクシフトとして術中麻酔管理や創傷管理の一部などを担い、医師業務の負担軽減等に努めた。
- ・患者やその家族と職員、または患者間での暴力（暴行、暴言など）で危険を感じた場合等の院内暴力への対応について見直しを行い、問題発生時には対応可能な事務職員及び警備員が駆け付けて対応する「コードホワイト」を新設した。

目標値

項目	令和2年度実績	令和3年度実績	令和4年度実績	令和5年度目標	令和5年度実績
有給休暇の年間取得日数 （医療従事者）	11.6日	12.4日	12.6日	12.7日	12.3日
医師の平均時間外 勤務時間数	38.6時間/月	41.1時間/月	48.5時間/月	46.0時間/月	48.6時間/月

参考値

項目	令和2年度実績	令和3年度実績	令和4年度実績	令和5年度実績
有給休暇の年間取得日数(医療従事者)				
(内訳) 医師・歯科医師	7.8 日	9.3 日	9.7 日	12.1 日
助産師・看護師	13.6 日	13.8 日	13.8 日	11.8 日
医療技術員 (※)	10.2 日	11.4 日	11.9 日	13.8 日
時間外勤務 年 960 時間超えの医師数	4 人	5 人	14 人	12 人
看護師特定行為研修修了者数	5 人	4 人	2 人	8 人
うち、当院職員修了者数	5 人	3 人	1 人	6 人

※ 医療技術員・・・薬剤師、診療放射線技師、臨床検査技師、管理栄養士、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、視能訓練士、臨床工学技士、歯科衛生士

4 地域との連携

(1) 地域の医療機関との連携

○地域の医療機関との連携推進

- ・地域連携室に専任担当者を配置し、連携実績の統計を作成するほか、DPC公開データの利用・分析による地域医療の状況を把握や、連携先への訪問や協議・情報交換の場で直接意見や要望を収集した。
- ・目標値である紹介率* (達成率 104.4%)、逆紹介率 (達成率 109.6%) はいずれも前年度と同水準で推移し、目標値を上回った。新規の受診はかかりつけ医からの紹介がほとんどであり、症状が安定した際にはかかりつけ医へ逆紹介し、連携実績を地域連携室で一元的に把握することで、速やかな連携に努めた。
- ・病床や医療機器の共同利用、イージーイーツーネットなど、診療情報の施設間共有システムや連携安心カード、複数の地域医療連携パスの活用により、他施設・機関と様々な連携を行った。
- ・開業医への訪問活動や、静岡市静岡医師会・清水医師会の会員病院等との交流により、「顔の見える病診連携」を推進した。

7月31日(月) 静岡市立静岡病院 病診連携総会 (ホテルグランヒルズ静岡)

51施設、計118人が参加し、病診連携の現状や静岡病院のトピックス等について情報を共有した。

12月5日(火) 令和5年度地域連携勉強会 (西館12階 講堂 参加人数39人)

「血糖降下注射薬の特徴を知って看護に活かそう」

講師：静岡病院 糖尿病看護認定看護師 今井 憲二

目標値

項目	令和2年度実績	令和3年度実績	令和4年度実績	令和5年度目標	令和5年度実績
紹介率	86.4%	86.6%	90.6%	87.0%	90.8%
逆紹介率	144.0%	140.0%	155.5%	140.0%	153.5%

参考値

項目	令和2年度実績	令和3年度実績	令和4年度実績	令和5年度実績
連携安心カード(オレンジカード)新規発行枚数	234 枚	273 枚	231 枚	231 枚

(2) 市や関係機関等との連携

○市や関係機関等との連携推進

- ・医学生の病院実習を47人(浜松医科大学20人、京都大学13人、関西医科大学8人など)受け入れた。北里大学や日本医科大学など新たな大学の受け入れも行い、医学生の育成に積極的に取り組んだ。
- ・看護学生は年間で554人の実習を受け入れた。教養科目、専門基礎科目等の知識を基盤にカリキュラムに沿った実習を医療現場で行い、看護師の育成に努めた。
- ・看護師特定行為研修を修了した当院職員と近隣病院職員で、年に3回症例検討会を開催し、病態判断や実践内容などの検証を行った。
- ・看護師特定行為研修では、新たに静岡県立大学と静岡県看護協会の実地協力施設となり、看護師の育成に取り組んだ。

静岡県立大学 特定行為区分：創傷管理関連

静岡県看護協会 特定行為区分：栄養及び水分管理に係る薬剤投与関連感染に係る薬剤投与関連

- ・救急活動の現場において、傷病者に対し迅速かつ的確な救急救命処置を行う能力の向上を図るため、静岡市消防局より14人の実習を受け入れた。
静岡市消防局警防部救急課 救命救急士の就業前病院実習2人、再教育病院実習8人
静岡市消防局消防部消防総務課 消防学校救急科病院実習4人
- ・外部講師により研修医を対象に月2回開催している「救急ミニレクチャー」では、受講を希望する静岡市救急隊員の受け入れを新たに開始し、地域の医療技術向上に努めた。
- ・就労支援事業所からの依頼により1人（5日間）の病院実習を受け入れた。また、2人の病院見学を受け入れた。
- ・静岡市が主催する「市政出前講座」に協力し、市政運営と市民への情報提供に努めた。
- ・1月1日に発生した能登半島地震では、当院の医療救護活動と静岡市の被災地対応について静岡市危機管理総室と随時情報を共有し、支援活動を行った。また、静岡市が実施する遺体措置訓練（8月24日（木））に参加し、防災無線を使用した搬送・引き渡しの訓練を行った。
- ・静岡マラソン実行委員会（静岡市、静岡陸上競技協会、静岡商工会議所等）が主催する静岡マラソン2024（3月10日（日））へ救護活動に従事するため、医師4人、看護師11人を派遣し運営に協力した。

参考値

項目	令和2年度実績	令和3年度実績	令和4年度実績	令和5年度実績
看護実習受入実人数 （看護学校）	147人	260人	482人	554人
救急救命士実習受入人数 （消防局）	21人	12人	2人	14人
障がい者職場実習受入人数 （支援学校等）	0人	1人	9人	1人

（3）市民への情報提供

○市民への情報提供と広報活動の充実

- ・広報担当である総務課総務・企画係と広報委員会を中心に、定期的な広報誌・病院年報の発行のほか、講演会の開催、ホームページからの情報発信等により患者や市民、関連施設等に向けた啓発活動に取り組んだ。
- ・病院ホームページは、新設した「おなかのヘルニアセンター」「肩・肘・手外科センター」の紹介や各診療科ページの見直し、イベントの開催情報に加えメディア取材やDMA T出動等の院内トピックスの情報発信を行い、訪問数は471,482と令和4年度実績を約18,400上回ったが、目標値を下回る結果（達成率89.0%）であった。
- ・がんに対する正しい知識、がん患者への理解及び命の大切さに対する認識を深めるため、中学生を対象としたがん教育の講義を9校、1,118人を対象に実施した。
- ・「第14回静岡市民からだの学校」や市民公開講座の開催、市政出前講座への協力などにより、患者・家族や市民を対象に、医療に関する教育・啓発活動を行った。

<第14回静岡市民からだの学校>

中心市街地版

10月22日（日） 13：30～15：30 会場・しずぎんホールユーフォニア

テーマ：「肩・肘・手外科センター 上肢の障害とスポーツ傷害」（参加人数：211人）

地域版 in 井川

11月15日（水） 14：00～15：45 会場・井川ビジターセンター （参加人数：12人）

地域版 in 梅ヶ島

11月17日（金） 19：00～20：30 会場・梅ヶ島生涯学習交流館 （参加人数：23人）

地域版 in 清沢

11月28日（火） 14：00～15：30 会場・清沢生涯学習交流館 （参加人数：37人）

<市民公開講座>

2月17日（土） 14：00～15：30 会場・静岡病院西館12階 講堂

テーマ：「当院のロボット支援下手術について」（参加人数：82人）

<市政出前講座（主な実績）>

5月19日（金） 10：30～12：00 会場・用宗公民館 （参加人数：57人）

テーマ：「よい睡眠でからだも心も健康に」

- 9月28日(水) 9:50～11:30 会場・ハートピア清水 (参加人数:115人)
 テーマ:「よい睡眠でからだも心も健康に」
- 11月7日(火) 9:00～11:00 会場・社会福祉法人 葵寮 (参加人数:108人)
 テーマ:「新型コロナの感染対策について」

目標値

項目	令和2年度実績	令和3年度実績	令和4年度実績	令和5年度目標	令和5年度実績
病院ホームページ訪問数(※)	600,458	523,057	453,099	530,000	471,482

※ 訪問数…セッション数。ホームページへのアクセスから離脱までを「1」とする指標。

参考値

項目	令和2年度実績	令和3年度実績	令和4年度実績	令和5年度実績
市政出前講座 受講延べ人数	157人	256人	1,036人	730人
中学生対象 「がん教育」活動実績	8校 8講義・8日間	7校 12講義・8日間	9校 15講義・11日間	9校 14講義・9日間

第3 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためとるべき措置

1 効率的な業務運営等

○効率的な業務運営と改善活動

- 組織や人事、財務に関する課題を検討する経営統括会議を年46回、病院運営に係る課題を検討する運営会議を年24回開催し、速やかな課題解決に取り組んだ。設定した重要業績評価指標(KPI)による進捗管理や分析・検討を月次で行い、各診療科との院長ヒアリングでは診療科別・疾患別の原価計算資料によりディスカッションを行った。

重要業績評価指標(KPI) 新入院患者数、救急外来入院患者数、1日平均入院患者数
 平均在院日数*、入院単価、入院収益

- 病院運営に必要な委員会や部会を設置し、委員会要綱に則り活動を行った。各種委員会等の活動は経営統括会議・運営会議に報告し、診療部会議や病院部門連絡会、院内ネットワークを通して各職員へ周知した。
- 「断らない救急」体制における重症患者受入体制拡充の必要性や、主軸である急性期医療・高度急性期医療等をより一層推進するため病床を再編。HCU(ハイケアユニット)を東8病棟へ集約し20床から30床へ増床した。また、秘書機能強化のため総務課内に「秘書係」を新設したほか、「おなかのヘルニアセンター」「肩・肘・手外科センター」を開設するなど、当院の安定した医療体制と運営の確保や各部門・部署の位置づけ、職員の指示命令系統等の整備を行った。
- 平均在院日数は、クリニカルパスの増加や早期退院に向けた取り組み等により10.6日(達成率103.8%)と短縮し、入院単価は96,807円(前年度比+5,679円)に増加した。平均在院日数の短縮により1日平均入院患者数は407人(達成率96.9%)に減少したが、新入院患者数は12,795人(前年度比+685人)と増加し、高度な急性期医療の提供を推進した。
- 病院機能評価受審に際し、各種マニュアルと業務手順の見直し、模擬審査や院内ラウンド等を行い業務の質改善に取り組んだ。訪問審査後の中間報告において指摘された1項目について見直しを行い、補足的な審査により改善が認められ更新が認定された。

<受審概要>

訪問審査日 10月19日(木)、20日(金)

審査内容

サーベイヤー(外部評価調査者)7名による書類確認、面談、部署訪問による審査。患者中心の医療の推進、良質な医療の実践1、良質な医療の実践2、理念達成に向けた組織運営の4領域88項目について審査。

審査結果

S評価(秀でている) 1項目
 A評価(適切に行われている) 76項目
 B評価(一定の水準に達している) 11項目
 C評価(一定の水準に達していない) なし

中間報告では、リネン類の保管場所について指摘を受けたが、保管場所の変更と運用の見直しを行い、訪問審査後の補充的な審査で改善が認められ5年間の更新が認定された。

- ・卒後臨床研修機能評価（JCER）受審に際し、研修プログラムやマニュアル類の見直し、模擬審査や院内ラウンド等を行い臨床研修体制の改善に取り組んだ。審査の結果、更新が認定された。

<受審概要>

訪問審査日 2月15日（木）

審査内容

サーベイヤ（外部評価調査者）3名による研修医等の面談、書類確認、部署訪問による審査。臨床研修病院としての役割、研修環境や指導体制、研修修了後の進路など8領域27項目について審査。

審査結果

適切 14項目

要検討 9項目

要改善 4項目

審査の結果、「要改善」が20%未満（4項目/27項目=14.8%）となり、4年間の更新が認定された。

目標値

項目	令和2年度実績	令和3年度実績	令和4年度実績	令和5年度目標	令和5年度実績
1日平均入院患者数	393人	399人	419人	420人	407人
平均在院日数	11.7日	11.4日	11.6日	11.0日	10.6日

参考値

項目	令和2年度実績	令和3年度実績	令和4年度実績	令和5年度実績
入院単価	84,318円	90,601円	91,128円	96,807円
新入院患者数	11,279人	11,787人	12,110人	12,795人

2 教育研修の充実

○教育研修の充実と環境整備

- ・新規採用職員を対象とした多職種合同研修を4月20日（木）、21日（金）の二日間、テルモメディカルプラネックス（神奈川県足柄上郡中井町）で実施した。また、医療安全や感染対策、個人情報など全職員対象を対象とした教育・研修は年間をとおして開催し、eラーニングやDVDの活用などにより受講率の向上に努めた。
- ・第40回看護研究発表大会を「磨こう看護のちから」をテーマに11月25日（土）にハイブリッド形式で開催し、257名が参加した。また、各分野での研究成果と最新の情報を職員で共有することを目的とした院内学術発表会をポスター形式で開催。各部署から17演題が発表された。
- ・看護師特定行為研修修了者がクリニカルラダー研修において、「臨床推論」をケーススタディ形式で指導した。また、各部署では特定看護師と共に勉強会を開催し、「病態生理」などの指導を行い看護師のアセスメント力の向上を図った。
- ・教育研修管理センターが中心となり、研修医のみならず各診療科医師の意見も取り入れながら研修プログラムの充実とシミュレーションラボ室の効果的な運用に努めた。
- ・静脈注射トレーニングアームやレサシアン等のシミュレーターの新規購入や、白内障手術、膝関節鏡操作等の実習プログラムの追加など、実習メニューの充実を図り、目標値である実習プログラム受講延べ人数は1,498人（達成率136.2%）と目標値を上回った。
- ・各種シミュレーターを備えたトレーニングルームとWeb環境を常設した部屋を新たに東5階へ設置し、シミュレーションラボ室と共に職員教育の充実にも努めた。
- ・臨床研修指導医講習会の受講により、指導医数は59名となった。また、新たに1名がプログラム責任者養成講習を受講し、院内のプログラム責任者は5人となった。

目標値

項目	令和2年度実績	令和3年度実績	令和4年度実績	令和5年度目標	令和5年度実績
実習プログラム(※) 受講延べ人数	907人	1,319人	1,780人	1,100人	1,498人

※ 実習プログラム…主に医師・看護師対象の、トレーニング機器を利用した診療行為別の訓練メニュー

参考値

項目	令和2年度実績	令和3年度実績	令和4年度実績	令和5年度実績
シミュレーションラボ室 利用延べ人数	3,829人	3,775人	4,309人	3,848人
臨床研修指導医数	56人	54人	56人	59人

3 職員の勤務意欲の向上

○職員満足度向上に向けた取り組み

- ・育児短時間勤務看護師とパート職員で構成し、入院患者の病歴確認や入院生活のオリエンテーション等を行う「入院支援チーム」を新たに立ち上げた。育児と仕事のバランスに配慮しながら、短時間勤務者の看護の経験と能力を最大限に活かせる場を設けることで、多様な働き方へ柔軟に対応した。
- ・コンサルタントによる病棟看護師の業務量調査を実施。調査結果から、多くの時間を費やしていた看護記録業務や申し送り業務の見直し等、職員自らが改善に取り組み、業務の軽減と時間外の縮減を図った。
- ・月例給、初任給調整手当、期末・勤勉手当の改定(引上げ)、災害応急対策等業務手当の新設、夜間看護手当の加算、看護補助者(ナースिंगアシスタント)の賃金の引き上げなど、処遇改善に取り組んだ。
- ・同性パートナーの特別休暇等の取得や定年の段階的な引き上げ、定年前再雇用短時間勤務職員制度の導入など就業規則の改正を行い、働きやすい環境整備に取り組んだ。
- ・海外で開催された学会で演題発表を行った医師4名、理学療法士1名に対して、海外演題発表奨励金を支給し、自己啓発の促進に努めた。
- ・職員の資格取得を支援する看護師の特定行為研修修学資金貸与制度について、6名が制度利用による受講を開始し、年度内に修了した。

◆職員満足度調査概要

対象者：全職員(パートタイマー職員含む)

調査期間：12月1日(金)～12月21日(木)まで

回答者数：874人(回答率 69.8%)

Q1 「現在の仕事にやりがいがあると思いますか」 3.78 (達成率 101.3%)

参考：一般病院(500床以上)ベンチマーク 3.71

Q2 「当院を職場としてすすめようと思いますか」 2.91 (達成率 99.3%)

参考：一般病院(500床以上)ベンチマーク 2.88

- ・職員満足度調査の結果を踏まえ、各所属において「職員満足カイゼン検討シート」を作成し改善に取り組むことで、職員が安心して働ける職場環境の整備に努めた。
- ・新規採用の看護師に対して、副看護部長等が頻回な面談と定期的なサポートを行うと共に、所属長による看護師全員を対象とした面談の実施により、離職の防止に努めた。

目標値

項目	令和2年度 実績	令和3年度 実績	令和4年度 実績	令和5年度 目標	令和5年度 実績
職員満足度(5段階評価)					
Q.現在の仕事にやりがいがあると思いますか	3.72	3.72	3.71	3.73	3.78
Q.当院を職場としてすすめようと思いますか	2.98	2.92	2.92	2.93	2.91

参考値

項目	令和2年度実績	令和3年度実績	令和4年度実績	令和5年度実績
資格取得支援制度利用者数	2人	7人	7人	8人
教育休職制度等利用者数	2人	1人	2人	1人
育児・介護休業制度利用者数	69人	78人	75人	84人

4 事務部門の強化

○事務職員の育成

- ・今年度より「目標による管理」を事務職員で試行した。業務の進捗管理や上司との面談を通じて、業務の進め方や改善点についての指導を行い、達成度に応じて年度末に業績評価を行うことで、職員の事務遂行能力を高める取り組みとした。
- ・事務職員の人材育成プランの原案を作成及び決定し、令和7年度の本格運用に向けて協議を進めた。
- ・院内の各委員会での活動や、病院機能評価・卒後臨床研修機能評価受審に向けた他部門との協働による改善活動への参加等により、業務連携を推進した。
- ・静岡市が主催する階層別研修や選択研修に事務職員17名が参加し、職位別に必要となる知識や事務職員としての事務能力向上等を図り、事務部門の強化に努めた。

- ＜階層別研修＞
- ・チームワーク入門研修（採用3年目研修）
 - ・問題発見力向上研修（主任主事級研修）
 - ・問題解決力向上研修（主任主事級研修）
 - ・総合マネジメント研修（主査級研修）等
- ＜選択研修＞
- ・説明能力向上研修（コミュニケーション能力）
 - ・クレーム対応研修（コミュニケーション能力）
 - ・レジリエンス研修（業務遂行能力）
 - ・段取り力向上研修（業務遂行能力）
 - ・コンセプチュアルスキル研修（政策形成能力）
 - ・ワンペーパー資料作成研修（政策形成能力）等

参考値

項目	令和2年度実績	令和3年度実績	令和4年度実績	令和5年度実績
自院主催研修 事務職員受講者数	53 人	63 人	60 人	63 人
静岡市主催研修 事務職員受講者数	9 人	20 人	19 人	17 人
医療団体等主催外部研修 事務職員受講者数	3 人	6 人	9 人	19 人

第4 財務内容の改善に関する目標を達成するためとるべき措置

1 経営指標に係る数値目標の設定

○数値目標達成に向けた取り組み

- ・医業収益は、入院単価、外来単価の増加などにより前年度に比べ832百万円増の21,034百万円となった。
- ・医業費用は、給与改定による給与費の増加、薬品費及び診療材料費の増加などにより前年度に比べ843百万円増の22,282百万円となった。
- ・第3期中期計画の始まりの年度であり、静岡市からの運営費負担金が前年度に比べ220百万円増の2,170百万円となったものの、5月8日から新型コロナウイルス感染症の感染症法上の位置づけが5類に移行したことにより、新型コロナウイルス感染症対策に係る補助金は前年度に比べ1,196百万円減の362百万円となった。
- ・その結果、今年度の経常収支は93百万円の黒字となり、経常収支比率、医業収支比率ともに、目標値を上回った。（病院運営に係る新型コロナウイルス感染症関連補助金を除いた場合、269百万円の赤字）

目標値

項目	令和2年度実績	令和3年度実績	令和4年度実績	令和5年度目標	令和5年度実績
経常収支比率	106.1%	105.4%	105.1%	96.5%以上	100.4%
医業収支比率	91.7%	92.4%	94.2%	92.0%以上	94.4%

参考値

項目	令和2年度実績	令和3年度実績	令和4年度実績	令和5年度実績
不良債務比率	0%	0%	0%	0%
資金不足比率	0%	0%	0%	0%
累積欠損金比率	0%	0%	0%	0%

2 収入の確保及び費用の節減

○収入の確保及び費用の節減に向けた取り組み

(収入の確保)

ア 適切な診療報酬請求事務の実施

- ・請求漏れ防止策として、定期的に請求データの精度管理を実施。査定内容の検証や積極的な再審査請求及び再発防止のため、保険診療委員会を毎月開催し、査定理由に応じたチェックシステムへの登録等の査定対策に努め、査定率は0.18%（前回は0.18%）となった。
- ・施設基準の取得については、定期的に取得可否を検証し機会損失のないよう対応した。
＜参考：令和5年度 施設基準取得は5件、年間47,000千円の増収＞

イ 未収金発生防止と回収の取組

- ・オンライン資格確認システムを活用した、健康保険証や限度額適用認定証の速やかな確認及び、職員による督促を行い令和5年度の収納率（現年度分）は99.3%（前回は99.3%）となった。

ウ 地域医療機関との連携

- ・紹介率は90.8%（前年度実績90.6%）、逆紹介率は153.5%（前年度実績155.5%）となった。

エ 入退院支援に係る取組

- ・入院前に退院困難な患者のスクリーニングによるアプローチ等を早期に行い、入院前から退院まで一連の支援を行った。

(費用の節減)

ア 給与費抑制に係る取組

- ・人件費の適正な管理については、経営面への影響を配慮しつつ、診療報酬の確保や働き方改革への対応、第一種感染症指定医療機関としての医療体制の整備などを十分に配慮した上で、職員の適正配置及び時間外勤務の適正管理による給与費の抑制に努めた。
- ・給与費比率は46.8%であった。

イ 医薬品や診療材料費の抑制に係る取組

- ・後発品の採用については、毎月の薬剤委員会にて各メーカーからの最新情報を検証し、切替可能な医薬品から行い、後発医薬品指数[※]は88.7%となった。
- ・医薬品価格交渉については、アドバイザーからの最新の市場価格情報に基づき医薬品ディーラーと定期的に交渉（年2回）し、主要5社の医薬品最終値引率は15.1%となった。
- ・診療材料の価格交渉については、当院が利用契約を行っているベンチマークシステムを指標とし、職員がディーラーと価格交渉を行い、ベンチマークシステムの平均値を下回るよう取り組んだ。
- ・在庫管理については、医薬品は年4回、診療材料は毎月の実地たな卸しを行い、在庫管理の徹底や期限切れ等による減耗損の発生防止に努めた。

ウ 職員の経営意識の醸成

- ・月次収支の報告資料の内容について、前年度との差異が生じた理由等や医業収支及び営業収支の状況等を、経営統括会議にて毎月詳細に説明するとともに、必要に応じて経営向上のための協力事項を整理し、幹部や各部門に伝達した。

目標値

項目	令和2年度実績	令和3年度実績	令和4年度実績	令和5年度目標	令和5年度実績
職員給与費比率	51.4%	49.4%	48.2%	50.0%以下	46.8%
経費比率	18.0%	17.3%	16.2%	18.0%以下	15.7%
委託費比率	9.2%	9.1%	8.2%	9.1%以下	8.0%

参考値

項目	令和2年度実績	令和3年度実績	令和4年度実績	令和5年度実績
病床稼働率（506床）	77.8%	78.8%	82.8%	80.4%
入院収益	12,114百万円	13,182百万円	13,931百万円	14,416百万円
外来収益	5,195百万円	5,454百万円	5,926百万円	6,247百万円
薬品費比率	16.3%	17.2%	18.3%	18.6%
診療材料費比率	16.5%	16.8%	16.1%	17.2%

第5 その他業務運営に関する重要事項に係る目標を達成するためとるべき措置

1 法令等の遵守

○法令等の遵守

- ・静岡県保健所による医療法第25条第1項に基づく定期立入検査が11月22日（水）に実施された。指摘事項（法令等に違反するもの）はなく、適正と認められた。
- ・労働基準監督署による立入検査が11月10日（金）に実施され、是正勧告により職員の労働時間と健康管理について指摘を受けた。指摘について適正に是正し、改善状況を労働基準監督署へ報告した。
- ・静岡県個人情報保護条例の全部改正（新条例制定）に伴い、個人情報保護規程の改正を行った。関連するマニュアル等も改訂し、チェックシートの導入など職員一人ひとりのセルフチェックに資する内容とした。
- ・個人情報保護講演会は、個人情報保護と情報セキュリティをテーマに、外部講師と病院職員を講師に開催した。

＜個人情報保護講演会＞

9月29日（金）

1 サイバーセキュリティと個人情報保護～情報漏洩を防ぐ～

講師：SOMPO リスクマネジメント(株)上級コンサルタント 山崎 堅司 氏

2 個人情報保護に関する基本手引と現場における個人情報の具体的な取扱いの改正

講師：総務課 総務・企画係 係長

3 USBメモリ・電子メールの取扱いに関するお願い

講師：総務課 情報係 係長

- ・1月～2月を個人情報保護重点取組月間とし、各部署で目標と取り組み内容を定めて活動した。期間中の3日間で個人情報保護院内ラウンドを行い、チェックの視点を養うと共に他部署での取り組みを共有した。
- ・静岡県警察本部と合同による標的型攻撃メール訓練を実施。院内の任意の200アカウントを対象に、作成した訓練用疑似メールを送信し、当院職員が適切に対応できるかを検証した。訓練では1割弱の職員が疑似メールに反応、返信する結果であったことから、訓練後、県警からのアドバイスを含め不審メール受信時の対応について院内へ注意喚起した。

＜標的型攻撃メール訓練＞

6月19日（月） Web サーバー観測時間 10：00～17：00

送信数 200 アドレス URL開封率14.5%（29アドレス）

- ・管理監督者を対象としたハラスメント防止研修会を開催した。また、ハラスメント防止に関する院内への注意喚起や相談窓口の周知など職場内のハラスメント防止に取り組んだ。

＜ハラスメント防止研修会＞

3月7日（木） ハラスメントオンライン研修講座

講師：成蹊大学 法学部教授 原 昌登氏

（主任科長・看護師長・技師長・係長級以上対象 参加人数78人）

参考値

項目	令和2年度 実績	令和3年度 実績	令和4年度 実績	令和5年度 実績
医療法第25条第1項に基づく立入検査での指摘事項数	0件	0件	0件	0件
個人情報保護講演会受講者数	545人	679人	777人	817人
ハラスメント防止研修会受講者数 （所属長対象）	32人	41人	55人	78人

2 施設・医療機器等の更新

○施設・医療機器等の更新

- ・病院事務における、より一層の業務の効率化や職員の負担軽減のため、最新のデジタル技術を活用した病院DXを推進するため、電算委員会内に病院DX部会を発足した。
- ・問診内容をテキスト化し、コピー＆ペーストで文字情報を電子カルテへ取り込む問診の電子化とOCR機能を口腔外科で導入し、問診業務の効率化と待ち時間の短縮を図った。今後は他科への運用拡大に取り組む。

問診の電子化…タブレット端末により、問診がテキストデータ化されることで電子カルテへの入力をスムーズにする機能。

OCR機能…お薬手帳等の紙媒体を読み取り文字をテキストデータ化し、電子カルテへの入力をスムーズにする機能。

- ・RPAへの取り組みとして、退院サマリー督促支援の試験的实施や、すでに運用している他院への視察、院内講演会の開催などにより導入に向けた取り組みを行った。

RPA・・・人がパソコン上で日常的に行っている作業を、人が実行するのと同じかたちで自動化する技術。操作手順を記録し、高速で正確に実行することが可能。

- ・文書管理システムの導入による電子決裁や運営会議資料の電子ファイル化により、ペーパーレスと文書の作成・検索・保存・引継・廃棄など業務にかかわる煩雑な文書管理業務の効率化に努めた。
- ・手術室10の増設を行った。増設した手術室はロボット手術室とし、更新した遠隔操作型内視鏡下手術装置（ダ・ヴィンチ）を設置した。

＜主な施設設備及び医療機器の更新＞

- ・手術室10増設工事
- ・西館昇降機更新
- ・2方向X線透視装置更新
- ・注射薬払出装置更新
- ・西館4階陣痛室等改修工事
- ・東8階HCU（ハイケアユニット）増床工事
- ・正面玄関等出入口テンキー・カードキー設置工事
- ・正面玄関職員用出入口増設工事

Ⅲ. 法人の内部統制の状況

当法人は、内部統制に係る基本方針を定め、内部統制体制の整備し、内部統制の充実及び強化を図っています。

＜内部統制に関する基本方針（業務方法書 第5条）＞

法人は、役員（監事を除く。）の職務の執行が法、他の法令、設立団体の条例若しくは規則又は定款に適合することを確保するための体制その他法人の業務の適正を確保するための体制を整備するとともに、継続的にその見直しを図るものとする。

【令和5年度実績】

- ・理事会の開催

第1回地方独立行政法人静岡市立静岡病院理事会 令和5年4月25日（火）開催

審議事項 議案第1号 地方独立行政法人静岡市立静岡病院組織規程の一部改正について

第2回地方独立行政法人静岡市立静岡病院理事会 令和5年6月29日（木）開催

審議事項 議案第1号 令和4年度財務諸表等の承認について

議案第2号 令和4年度業務実績報告書の承認について

議案第3号 第2期中期目標期間業務実績報告書の承認について

議案第4号 令和5年度予算の変更について

議案第5号 地方独立行政法人静岡市立静岡病院組織規程の一部改正について

報告事項 報告第1号 債権の放棄について

報告第2号 内部監査（会計・業務）報告について

報告第3号 訴訟案件について

第3回地方独立行政法人静岡市立静岡病院理事会 臨時会（書面開催）

審議事項 議案第1号 物品調達業務契約（内視鏡手術支援ロボット）の締結について

議案第2号 令和5年度予算の変更について

議 決 日 令和5年8月21日（月）

第4回地方独立行政法人静岡市立静岡病院理事会 令和5年9月21日（木）開催

審議事項 議案第1号 令和5年度予算の変更について

議案第2号 地方独立行政法人静岡市立静岡病院役員報酬規程の一部改正について

議案第3号 人事案件について

議案第4号 訴訟案件について

第5回地方独立行政法人静岡市立静岡病院理事会 令和5年12月7日（木）開催

審議事項 議案第1号 令和5年度予算の変更について

議案第2号 令和6年度編成要領について

議案第3号 地方独立行政法人静岡市立静岡病院職員給与規程の一部改正について

報告事項 報告第1号 令和5年度上半期の経営状況について

報告第2号 訴訟案件について

報告第3号 医療訴訟案件について

第6回地方独立行政法人静岡市立静岡病院理事会 令和6年3月15日（金）

審議事項 議案第1号 令和5年度予算の変更について

議案第2号 令和6年度計画について

議案第3号 令和6年度予算について

議案第4号 地方独立行政法人静岡市立静岡病院職員就業規則の一部改正について

議案第5号 地方独立行政法人静岡市立静岡病院職員給与規程の一部改正について

議案第6号 地方独立行政法人静岡市立静岡病院退職手当規程の一部改正について

議案第7号 地方独立行政法人静岡市立静岡病院組織規程の一部改正について

報告事項 報告第1号 令和5年度決算見込について

報告第2号 労働基準監督署への届出について

報告第3号 専決処分の報告について

・内部監査の実施

令和5年度静岡市立静岡病院内部監査（会計監査）

監査期間 令和5年11月～令和6年2月

監査対象 各月における収入・支出をはじめとした会計処理及び予算執行事務

内部監査責任者 事業管理部 参与兼総務課長

内部監査担当者 事業管理部 総務課経理係長及び係員2名

令和5年度静岡市立静岡病院内部監査（業務監査）

監査期間 令和5年12月～令和6年3月

監査対象 令和5年度事業として実施した委託料、賃借料の事業から抽出した契約事務

内部監査責任者 事業管理部 参与兼総務課長

内部監査担当者 所属長からの推薦により内部統制統括責任者（事業管理部長）が任命した職員9名
（総務課・人事課・施設課・医事経営室・医事課）

IV. 業務運営上の課題・リスク管理の状況

（1）リスク管理の状況

法人では、地方独立行政法人静岡市立静岡病院リスク管理に関する規程に基づき、法人の使命及び目標の達成を阻害する要因を定め、リスクの発生の防止又はリスクが発生した場合の損失の最小化に取り組んでいます。

<リスク管理体制>

1. 理事長は、法人におけるリスク管理を統括し、かつ、最終的な責任を有する。
2. 事業管理部長は、理事長を補佐し、リスク管理総括管理者として、リスク管理を総括する。
3. 部等（室及びセンターを含む。以下同じ。）の長は、リスク管理責任者として、部等におけるリスク管理を総括する。

<リスク管理委員会>

法人は、法人におけるリスク管理の検討、審議等を行うため、リスク管理委員会を置き、経営統括会議をもって充てる。

(2) 業務運営上の課題

法人の目的を阻害する主な要因は次のとおりです。

1. 法令等の遵守に関するもの
2. 財務報告に関するもの
3. 情報システムに関するもの
4. 医療に関するもの
5. 事務手続に関するもの
6. 災害又は事件等に関するもの
7. その他法人の業務遂行に関するもの

法人では、安心・安全な医療の提供（医療安全対策、法令・行動規範の遵守の徹底）、災害時医療・感染症医療の提供など、様々なリスクに対する備えと発生時の対応や、損失の最小化を図るための対策を検討し、リスク管理に努めています。詳細は、Ⅱ.業務実績等の状況を参照ください。

V. 予算と決算の対比

(1) 予算（令和5年度）

(単位：百万円、税込)

区分	予算額	決算額	差額 決算－予算
収入	22,769	24,481	1,711
営業収益	22,275	23,880	1,605
医業収益	19,927	21,105	1,178
運営費負担金収益	2,119	2,119	0
補助金等収益	229	656	427
その他営業収益	0	0	0
営業外収益	153	167	14
運営費負担金収益	51	51	0
その他営業外収益	102	116	14
臨時利益	0	0	0
資本収入	341	434	92
運営費負担金収益	0	0	0
長期借入金	300	300	0
その他資本収入	41	133	92
その他収入	0	0	0
支出	23,268	23,932	664
営業費用	20,996	21,450	454
医業費用	20,540	21,044	504
給与費	9,957	9,755	△202
材料費	6,762	7,679	918
経費	3,722	3,525	△197
研究研修費	99	85	△14
一般管理費	456	406	△50
営業外費用	148	150	2
臨時損失	0	0	0
資本支出	2,124	2,332	207
建設改良費	1,459	1,678	220
償還金	581	581	0
その他資本支出	85	72	△12
その他支出	0	0	0

(注) 計数は、端数をそれぞれ四捨五入しているため、合計で一致しないものがある。

【人件費】

期間中総額 10,131 百万円を支出した。なお、当該金額は、役員報酬、職員基本給、職員手当、法定福利費及び退職手当の額に相当するものである。

(2) 収支計画 (令和5年度)

(単位：百万円、税抜)

区分	計画額	決算額	差額 決算－計画
収入の部	22,466	24,082	1,616
営業収益	22,322	23,915	1,593
医業収益	19,887	21,034	1,147
運営費負担金収益	2,119	2,119	0
補助金等収益	229	656	427
寄附金収益	0	0	0
資産見返負債戻入	86	106	20
営業外収益	145	165	21
運営費負担金収益	51	51	0
その他営業外収益	93	114	21
臨時利益	0	3	3
支出の部	23,317	23,989	673
営業費用	22,143	22,712	569
医業費用	21,687	22,282	595
給与費	9,951	9,854	△96
材料費	6,745	7,607	863
経費	3,424	3,301	△123
減価償却費	1,476	1,441	△35
研究研修費	92	79	△13
一般管理費	455	430	△26
営業外費用	1,174	1,278	103
臨時損失	0	0	0
純利益	△850	93	944
目的積立金取崩額	0	0	0
総利益	△850	93	944

(注) 計数は、端数をそれぞれ四捨五入しているため、合計で一致しないものがある。

(3) 資金計画 (令和5年度)

(単位：百万円、税込)

区分	計画額	決算額	差額 決算－計画
資金収入	29,838	25,057	△4,780
業務活動による収入	22,428	24,458	2,030
診療業務による収入	19,927	20,924	998
運営費負担金による収入	2,170	2,170	0
その他の業務活動による収入	331	1,364	1,032
投資活動による収入	41	299	258
運営費負担金による収入	0	0	0
定期預金の戻入による収入	0	100	100
その他の投資活動による収入	41	199	158
財務活動による収入	300	300	0
長期借入れによる収入	300	300	0
その他の財務活動による収入	0	0	0
前年度からの繰越金	7,068	7,430	361
資金支出	29,838	25,156	△4,682
業務活動による支出	21,144	22,370	1,226
給与費支出	10,407	10,181	△226
材料費支出	6,762	8,418	1,656
その他の業務活動による支出	3,976	3,771	△204
投資活動による支出	1,175	1,837	662
有形固定資産の取得による支出	1,091	1,153	63
無形固定資産の取得による支出	0	10	10
定期預金の預入による支出	0	100	100
投資その他の資産の取得による支出	0	500	500
その他の投資活動による支出	85	73	△11
財務活動による支出	949	948	△1
長期借入金返済による支出	300	300	0
移行前地方債償還債務の償還による支出	281	281	0
その他の財務活動による支出	368	367	△1
次年度への繰越金	6,569	7,331	762

(注) 計数は、端数をそれぞれ四捨五入しているため、合計で一致しないものがある。

VI. その他市の規則で定める業務運営に関する事項

施設及び設備に関する計画 (令和5年度)

(単位：百万円、税込)

施設及び設備の内容	決算額	財源
施設、医療機器等整備	1,678	静岡市長期借入金等

VII. 財務諸表及び運営状況

(1) 決算概要

令和5年度は、新型コロナウイルス感染症が感染法上の5類に移行したことに伴い、市民生活に平静さが戻り、新患者数はコロナ禍前の水準への回復傾向が見られました。

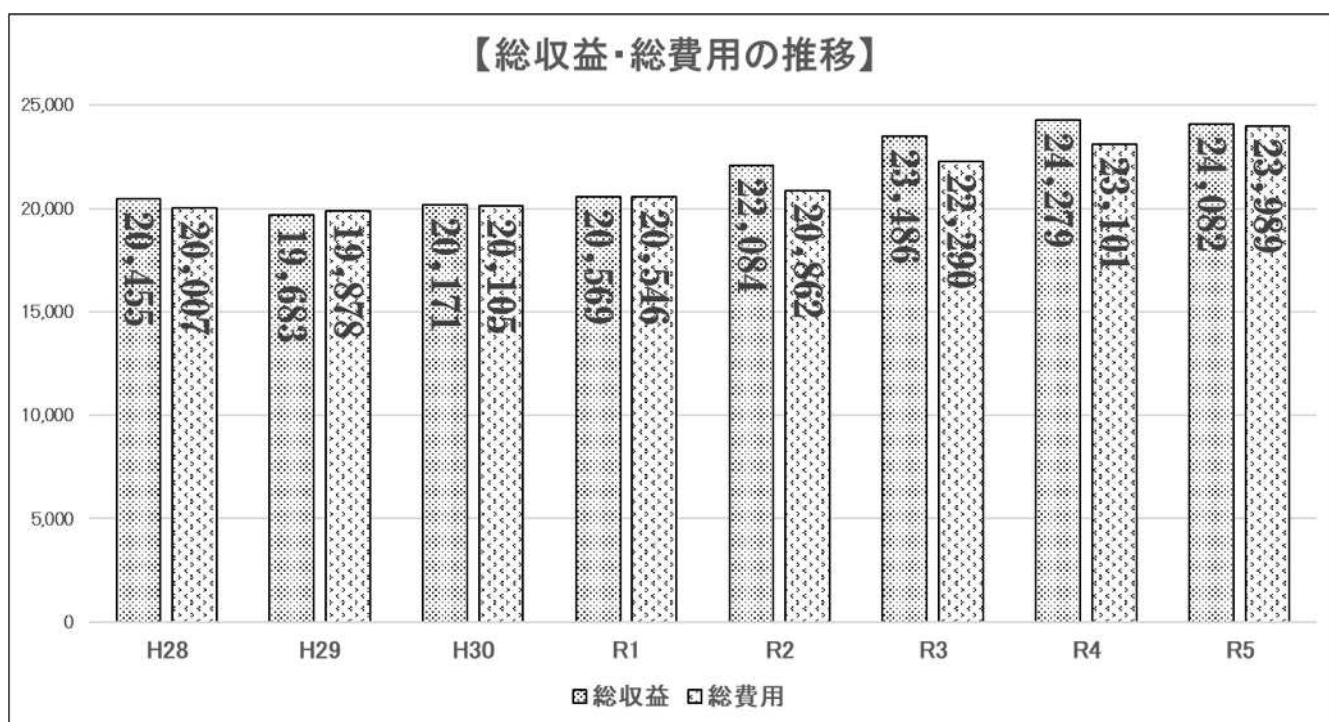
また、当院の第3期中期計画がスタートし、これまで以上に急性期診療体制を高める方針とし、クリニカルパスの利用増や地域医療連携による早期退院を推進することで在院日数の短縮を図り、また引き続き「断らない医療」として救急患者の積極的な受入れによる新入院患者の確保など、医業収益増につながる様々な取組みにより、入院・外来業務の診療単価については、過去最高であった令和4年度実績を更に上回る結果となりました。

収益面については、入院・外来業務ともに診療単価の増により、入院収益は144億16百万円、前年度比4億85百万円の増、外来収益は62億47百万円、前年度比3億20百万円の増となりました。

このほか、第3期中期計画に合わせ静岡市からの運営費負担金が21億19百万円、前年度比2億24百万円の増となった一方で、新型コロナウイルス感染症関連補助金が3億62百万円、前年度比11億96百万円の大幅な減となりました。

費用面については、医業費用の給与費は給与改定の影響により、98億54百万円、前年度比1億18百万円の増となったほか、材料費は薬品、診療材料費が増加したことから、76億7百万円、前年度比6億24百万円の増となりました。

これらの結果、令和5年度の総収益は240億82百万円、総費用は239億89百万円、当期純利益93百万円の黒字決算となりました。なお、前述の新型コロナウイルス感染症対策事業に係る補助金収益を除いた場合は、約2億69百万円の赤字決算になります。

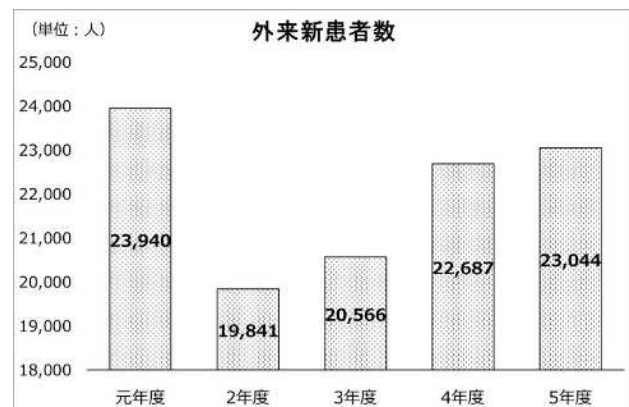
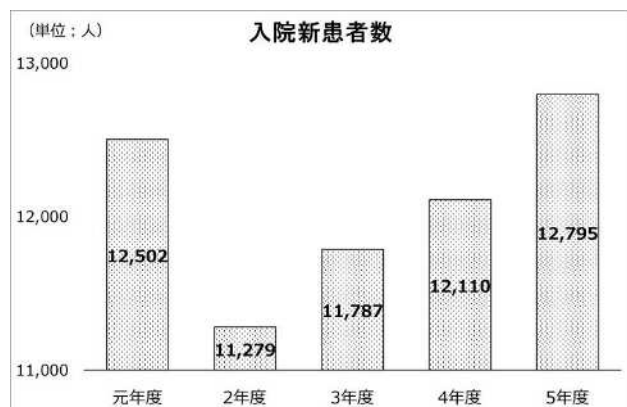
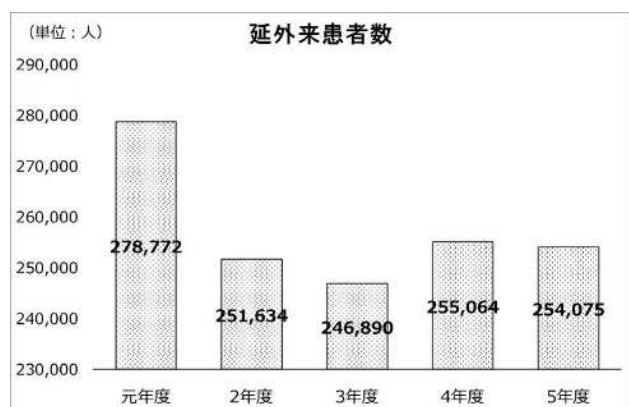
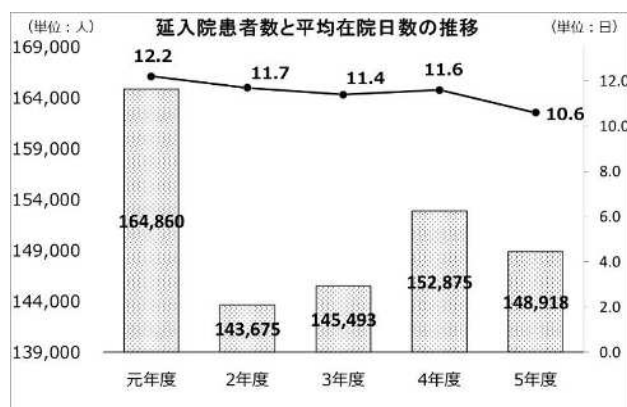
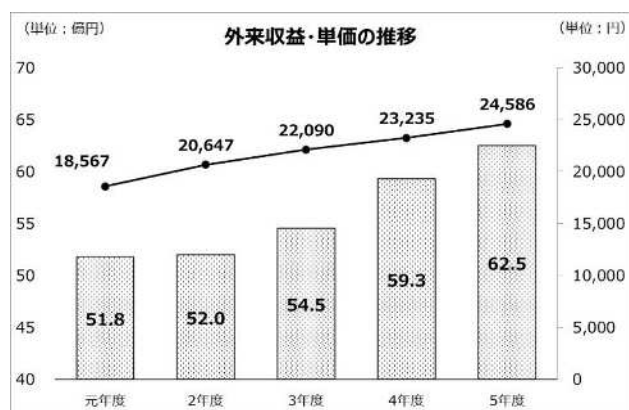
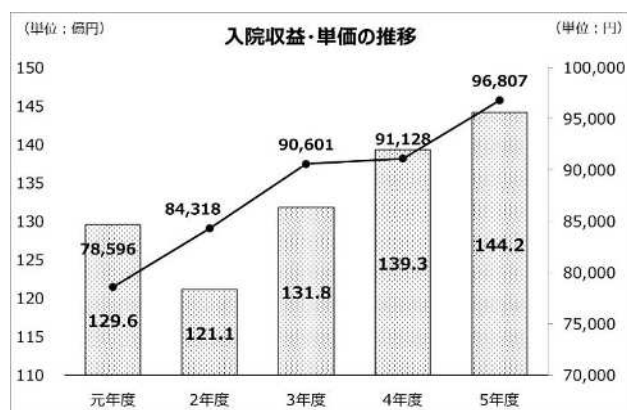


(2) 主な診療実績

入院関連	令和5年度実績	令和4年度実績	増 減
診療単価	96,807 円	91,128 円	5,679 円
延患者数	148,918 人	152,875 人	△3,957 人
一日平均患者数	407 人	419 人	△12 人
新患者数	12,795 人	12,110 人	685 人
病床稼働率	80.4%	82.8%	△2.4 P
平均在院日数	10.6 日	11.6 日	△1.0 日

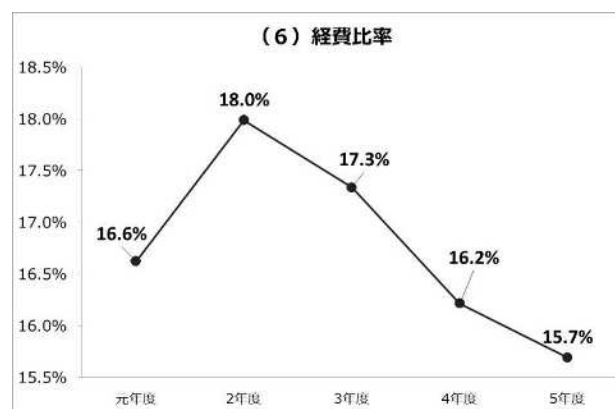
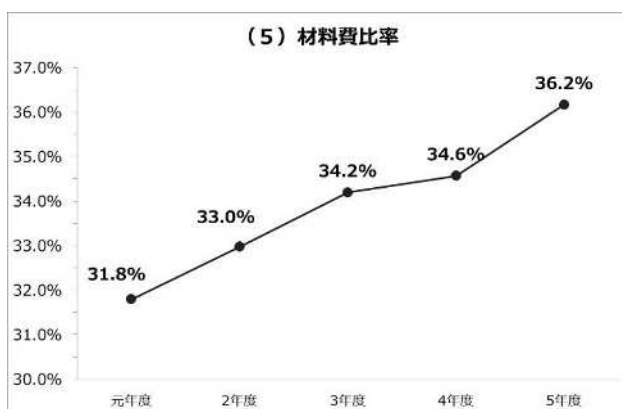
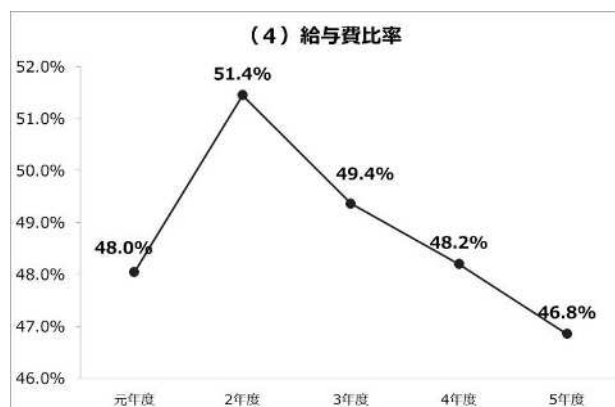
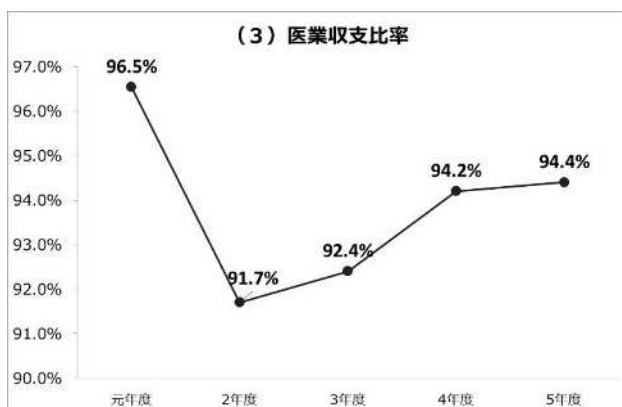
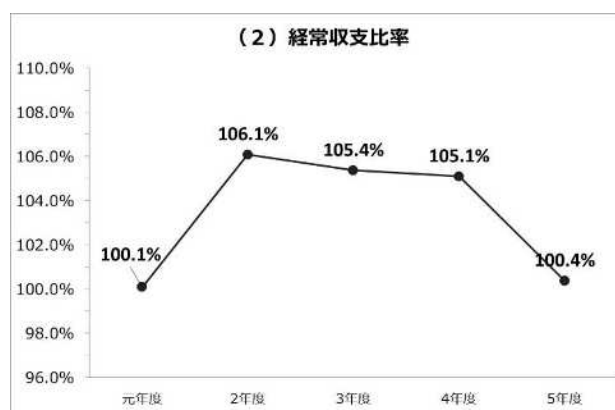
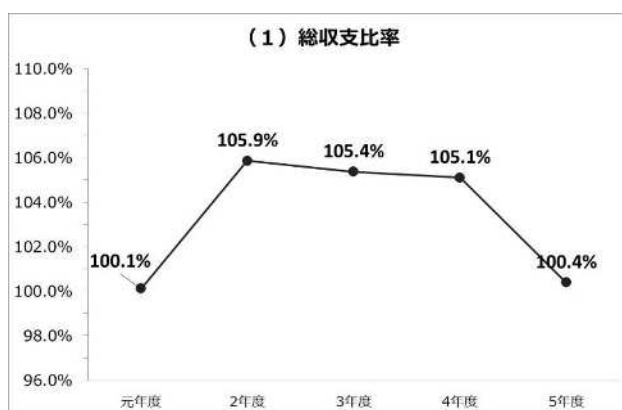
外来関連	令和5年度実績	令和4年度実績	増 減
診療単価	24,586 円	23,235 円	1,351 円
延患者数	254,075 人	255,064 人	△989 人
一日平均患者数	1,046 人	1,050 人	△4 人
新患者数	23,044 人	22,687 人	357 人

稼働状況等	令和5年度実績	令和4年度実績	増 減
手術件数	5,903 件	5,850 件	53 件
紹介率	90.8%	90.6%	0.2 P
逆紹介率	153.5%	155.5%	△2.0 P



(3) 経営指標

区 分	令和5年度実績	令和4年度実績	増 減
(1) 総収支比率	100.4%	105.1%	△4.7 P
(2) 経常収支比率	100.4%	105.1%	△4.7 P
(3) 医業収支比率	94.4%	94.2%	0.2 P
(4) 給与費比率	46.8%	48.2%	△1.4 P
(5) 材料費比率	36.2%	34.6%	1.6 P
(6) 経費比率	15.7%	16.2%	△0.5 P



【経営指標の計算式】

- (1) 総収支比率・・・総収益／総費用
- (2) 経常収支比率・・・(営業収益＋営業外収益)／(営業費用＋営業外費用)
- (3) 医業収支比率・・・医業収益／医業費用
- (4) 給与費比率・・・給与費(医業費用)／医業収益
- (5) 材料費比率・・・材料費(医業費用)／医業収益
- (6) 経費比率・・・経費(医業費用)／医業収益

(4) 貸借対照表

決算日（3月31日時点）におけるすべての資産（資金の運用形態）、負債及び純資産（資金の調達方法）を記載した法人の財政状況を明らかにしたものです。

（単位：百万円）

項 目	令和5年度末	令和4年度末	増減額	主な増減理由
資産の部	23,376	23,738	△ 361	
固定資産	11,836	11,604	232	
土地	3,001	3,001	0	
建物	4,732	4,886	△ 154	東館・西館等減価償却による減少
構築物	9	7	2	
器械備品	2,187	1,894	293	償却資産取得による増加
車両	10	15	△ 4	減価償却による減少
リース資産	1,071	1,408	△ 337	電子カルテ・ネットワーク機器減価償却による減少
建設仮勘定	24	65	△ 41	手術室増設業務の進捗による減少
無形固定資産	25	29	△ 4	減価償却による減少
投資有価証券	500	0	500	資金運用による増加
長期貸付金	276	297	△ 21	看護師修学資金の新規貸付減少
破産更生債権等	58	66	△ 8	
貸倒引当金(破産更生債権等)	△ 58	△ 66	8	
その他投資	0	0	0	
流動資産	11,540	12,134	△ 594	
現金及び預金	7,331	7,430	△ 99	キャッシュ・フロー計算書参照
未収金	3,835	4,327	△ 492	補助金分の減少
貸倒引当金	△ 28	△ 26	△ 2	
医薬品	248	235	14	
診療材料	132	149	△ 17	
前払金	17	15	2	
その他流動資産	4	3	1	保険前払分、有価証券利息未収分
負債の部	14,426	14,880	△ 454	
固定負債	10,966	11,514	△ 548	
資産見返負債	394	389	5	負担金等財源取得資産購入分の増加
長期借入金	600	600	0	
移行前地方債償還債務	4,169	4,456	△ 287	既往債の償還による減少
引当金	4,964	4,856	108	退職給付引当金の増加
リース債務	838	1,213	△ 374	電子カルテ・ネットワーク機器償還による減少
その他固定負債	1	0	1	
流動負債	3,460	3,366	94	
一年以内返済予定長期借入金	300	300	0	
一年以内返済予定移行前地方債償還債務	287	281	6	
未払金	1,738	1,698	40	固定資産支払分の増加
未払費用	94	91	3	
引当金	510	493	17	
一年以内支払予定リース債務	374	368	6	
その他流動負債	155	134	21	預り諸税、預り納付金
純資産の部	8,951	8,857	93	
資本金	4,919	4,919	0	静岡市出資金
資本剰余金	0	0	0	
利益剰余金	4,031	3,938	93	
前期中期目標期間繰越積立金	3,938	320	3,618	第2期中期目標期間からの繰越
目的積立金	0	2,440	△ 2,440	
当期末処分利益	93	1,178	△ 1,085	
うち当期純利益	93	1,178	△ 1,085	

（注）表中の数値は項目ごと百万円未満を四捨五入しているため、合計及び増減額が一致しない場合があります。

(5) キャッシュ・フロー計算書

一会計期間（4月1日から翌年3月31日までの1年間）における業務活動、投資活動及び財務活動の3つの区分に分けて資金の流れを明らかにしたもので、現金と普通預金の動きを示しています。

（単位：百万円）

項 目	令和5年度	令和4年度	増減額	主な増減理由
業務活動によるキャッシュ・フロー	2,088	2,236	△ 148	
材料の購入による支出	△ 8,418	△ 7,650	△ 768	薬品・診療材料支払額の増加による
人件費支出	△ 10,181	△ 10,084	△ 97	給与等支払額の増加による
その他の業務活動による支出	△ 3,645	△ 3,592	△ 54	経費等支払額の増加による
医業収入	20,924	20,007	918	入院・外来収益の増加による
運営費負担金収入	2,170	1,950	220	中期計画どおり
補助金等収入	1,250	1,621	△ 371	新型コロナウイルス感染症関連補助金の減少による
寄附金収入	0	10	△ 10	
その他の業務活動による収入	113	112	1	
利息及び配当金の受取額	0	0	0	
利息の支払額	△ 126	△ 139	13	
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 1,538	1,015	△ 2,553	
定期預金の戻入による収入	100	2,000	△ 1,900	満期解約による
定期預金の預入による支出	△ 100	0	△ 100	資金運用による
投資その他の資産の取得による支出	△ 500	0	△ 500	資金運用による
有形固定資産の取得による支出	△ 1,153	△ 978	△ 175	固定資産購入額の増加による
無形固定資産の取得による支出	△ 10	△ 5	△ 5	ソフトウェアの増加による
貸付金の回収による収入	30	35	△ 5	看護師修学資金返済分
貸付けによる支出	△ 72	△ 68	△ 5	看護師修学資金貸付分
預かり保証金受入れによる収入	3	0	3	
預かり保証金払出しによる支出	△ 1	△ 25	24	
補助金等収入	166	56	110	医療機器購入に係る補助金の増加による
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 648	△ 645	△ 3	
長期借入れによる収入	300	300	0	
長期借入金の返済による支出	△ 300	△ 300	0	
移行前地方債償還債務の償還による支出	△ 281	△ 275	△ 6	
リース債務の返済による支出	△ 367	△ 370	3	
資金増加額	△ 99	2,605	△ 2,704	
資金期首残高	7,430	4,825	2,605	
資金期末残高	7,331	7,430	△ 99	

（注1）表中の数値は各項目ごと百万円未満を四捨五入しているため、合計及び増減額が一致しない場合があります。

【定期預金含む資金残高】

（単位：百万円）

区 分	令和5年度 ①	令和4年度 ②	増減額 ①-②
資金期末残高	7,331	7,430	△ 99
定期預金	0	0	0
合計額	7,331	7,430	△ 99

（注）合計金額は貸借対照表「資産の部」の「現金及び預金」の金額と一致します。

(6) 純資産変動計算書

【地方独立行政法人静岡病院】

	Ⅰ 資本金		Ⅱ 利益剰余金						純資産合計
	地方公共団体 出資金	資本金 合計	前期中期目標期 間繰越積立金	目的積立金	積立金	当期末処分利益		利益剰余金 合計	
						うち当期純利益			
当期首残高	4,919,483,623	4,919,483,623	319,526,710	2,440,395,050	-	1,177,995,845	-	3,937,917,605	8,857,401,228
当期変動額									
Ⅰ 資本金の当期変動額									
Ⅱ 資本剰余金の当期変動額									-
固定資産の取得									-
固定資産の除売却									-
減価償却									-
Ⅱ 利益剰余金の当期変動額(純額)									
(1)利益の処分又は損失の処理									
積立金への振替			△ 319,526,710	△ 2,440,395,050	3,937,917,605	△ 1,177,995,845		0	0
前中期目標期間からの繰越し			3,937,917,605		△ 3,937,917,605			0	0
(2)その他									
当期純利益						93,119,159	93,119,159	93,119,159	93,119,159
当期変動額合計	-	-	3,618,390,895	△ 2,440,395,050	0	△ 1,084,876,686	93,119,159	93,119,159	93,119,159
当期末残高	4,919,483,623	4,919,483,623	3,937,917,605	0	0	93,119,159	93,119,159	4,031,036,764	8,950,520,387

(単位:円)

【地方独立行政法人静岡市立静岡病院】

(7) 行政コスト計算書

【地方独立行政法人静岡市立静岡病院】

(単位:円)

科 目	金 額		
I 損益計算上の費用			
医業費用	22,282,072,766		
一般管理費	429,519,574		
営業外費用	1,277,654,114		
臨時損失	131,767		
損益計算書上の費用合計		23,989,378,221	
II 行政コスト			23,989,378,221